

清風南海高等学校

エネルギーの観点から世界の改革を図る —未来を創造する産官学グローバルネットワーク構想—

【構想の概要】

地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材を育成することを目指す。具体的にはシナリオ・プランニングの手法を教材化して「未来を読み解く力」を養い、探究型学習によるプレゼンテーション能力・ディスカッション能力の育成と、4技能の発達に主眼を置いた英語教育の充実によって、「世界に発信する力」を育成する。また、その中で、国内外の企業・地方公共団体・大学・高校等と連携していくことで、本校を中心としたグローバルネットワークの構築を目指す。



グローバルコース

学 年	2016 (平成27) 年度入学生 清風南海高等学校 教育課程 (30分標準)			
	1年	2年	3年	
国 語	国語総合	6		
	現代文B		4	3
	古典B		4	3
	国語演習1			4
	国語演習2			4
	英語演習1			4
地 理	世界史A	2		
	世界史B		②3	①3
	日本史A	①2		
	日本史B		②3	①3
地 理 歴 史	地理A	①2		
	地理B		②3	①3
	現代社会	2		
	倫理		②3	①3
公 民	政治・経済			②3 ①3
	数学I	3		
	数学II		4	3
	数学III			5
数 学	数学A	2		
	数学B		3	3
	数学演習			4
	数学基礎			4
理 学	物理基礎	2		
	物理		★①4	★①4
	化学基礎	2		
	化学			3

一般コース

学 年	2016 (平成27) 年度入学生 清風南海高等学校 教育課程 (30分標準)			
	1年	2年	3年	
国 語	国語総合	6		
	現代文B		4	3
	古典B		4	3
	国語演習1			5
	国語演習2			4
	英語演習1			4
地 理	世界史A	2		
	世界史B		②3	①3
	日本史A	①2		
	日本史B		②3	①3
地 理 歴 史	地理A	①2		
	地理B		②3	①3
	現代社会	2		
	倫理		②3	①3
公 民	政治・経済			②3 ①3
	数学I	3		
	数学II		4	3
	数学III			5
数 学	数学A	3		
	数学B		3	4
	数学演習			4
	数学基礎			4
理 学	物理基礎	2		
	物理		★①4	★①5
	化学基礎	2		
	化学			4

学 年	2016 (平成27) 年度入学生 清風南海高等学校 教育課程 (30分標準)			
	1年	2年	3年	
国 語	国語総合	6		
	現代文B		4	3
	古典B		4	3
	国語演習1			5
	国語演習2			4
	英語演習1			4
地 理	世界史A	2		
	世界史B		②3	①3
	日本史A	①2		
	日本史B		②3	①3
地 理 歴 史	地理A	①2		
	地理B		②3	①3
	現代社会	2		
	倫理		②3	①3
公 民	政治・経済			②3 ①3
	数学I	3		
	数学II		4	3
	数学III			5
数 学	数学A	3		
	数学B		3	4
	数学演習			4
	数学基礎			4
理 学	物理基礎	2		
	物理		★①4	★①5
	化学基礎	2		
	化学			4

備考 ①:各学年で同じ記号のついた科目群からそれぞれ1科目を選択
 ②:各学年で同じ記号のついた科目群からそれぞれ2科目を選択
 ★①:各学年で同じ記号のついた科目群からそれぞれ1科目を選択
 ★②:各学年で同じ記号のついた科目群からそれぞれ2科目を選択

1. はじめに

本校の課題研究テーマは「シナリオ・プランニング (SP) を用いて未来のエネルギー事情を考える」であり、研究開発の主軸は SP である。SP を行うことで、論理性・課題発見能力を高め、主体的に活躍できる人材を育成することを目指している。しかし、本来 SP は高度なビジネス手法であり、その手順は高校生には難解である。また、SP を行うために必要な、未来に影響する因子を列挙するという作業のためには、広い視野と多角的な思考法を身につけねばならない。そこで、SP 演習に耐えうる生徒の素養を養うことを主たる目標として、STEP (Societal, Technological, Economic, Political) ゼミを開講しそれぞれの考え方を学ばせている。そのためには教員間の協力が不可欠であり、5 教科の教員が関わることで多様な視点を生み出している。また、GE (Global English) ゼミも開講し、通常の英語の授業と連携を取りながら、姉妹校との Skype 授業や、英語によるディスカッションやプレゼンテーション等を行っている。SP の成果を国内外に発信するとともに、フィールドワークの実施を通じて、現地の企業・大学・高校等との協働 SP も一部で行っており、これらの普及が進んでいる。

2. カリキュラムの開発と実施、成果等の発信

1 年次では STEP 基礎、GE、講演会・特別授業、フィールドワークを行い、2 年次における SP 実施に向けた基礎作りを行う。

2 年次になると、STEP ゼミの中から 1 つ選択する。これにより、「エネルギー」をテーマとする SP を実施するためのより深い知識を蓄える。11 月の国際シンポジウムで成果を発表し、更に改訂したものを 2 月の中間発表会で発表する。

3 年次では、班ごとにまとめた SP を論文として仕上げるとともに、個人執筆部分にも取り組む。論文の要約は英語で書き、これらを「卒業論文集」として発刊し、各 SGH 校に配布している。また、その他の成果等については、発表会・ホームページを通じて発信を行っている。

3. 生徒の成長・意識変化

グローバル (GL) コース生の海外への関心は高く、留学などの実際の行動にもつながっている。全校生徒を対象にアンケート調査を実施したところ、「情報収集やプレゼンテーションなど、ICT を活用する力」や「世界のいろいろな問題について興味を持ち、グローバルな視点で考える力」の項目で「大いにある」、「ある」と答えた生徒が、一般コース生で 25~30%、GL コース生で 80% であり、顕著な違いがあった。

また、高校 3 年生に対する調査では GL コースの教育に満足を感じている生徒は 86% であった。

「未来を考える国際シンポジウム」を実施することで、SP のプレゼンやパネルディスカッションを英語で行うという経験をさせる。これが生徒に与える影響は大きく、生徒の意欲的な活動の成果は勉強面でも顕著に表れている。

4. GL コース以外の生徒への波及、校内体制

海外研修への参加者数、外部コンテストや発表会への応募者数・合格者数は、グローバルコース以外の生徒でも増加している。また、トビタテ！留学 JAPAN には、全校で毎年 10 名以上が合格しており、2018 年度は 11 名が合格した。一方、2017 年度より中学校において「ポスター発表」が行われるようになり、各学年の発達段階に応じた工夫により、様々な発表が行われている。GL コースの取り組みが、学校全体に影響を与えた好例である。

さらに、教員の研修・指導力向上への取り組みが充実してきている。

